

第 53 回東北学校保健大会

兼

第 72 回宮城県学校保健·安全研究大会 第 69 回仙台市学校保健研究大会



第53回東北学校保健大会

第72回 宮城県学校保健・安全研究大会第69回 仙台市学校保健研究大会

主題

「生涯を通じて、心豊かにたくましく

生きる力をはぐくむ健康教育の推進」

~進んで健康づくりに取り組む子どもの育成~

主 催 第53回東北学校保健大会宮城県実行委員会

共 催 宮城県学校保健会 仙台市学校保健会 公益財団法人日本学校保健会 宮城県教育委員会 仙台市教育委員会



大会会長 佐藤 和宏

第53回東北学校保健大会大会誌の発刊に当たり、一言ごあいさつと御礼を申し上げます。

8月19日(水)東京エレクトロンホール、トークネットホール仙台で開催する 予定でありました本大会につきましては、今般の新型コロナウイルス感染症の状況 を鑑み、大会誌の作成をもって代替開催とさせていただきました。参加を予定して いた皆様、関係者の皆様には、誠に残念ではございますが、例年とは異なる形での 開催となりましたことをお詫び申し上げます。来年は通常開催できることを祈念い たしております。

近年、子どもたちを取り巻く社会環境の変化が急速に進む中で、生活習慣病の若年化や虐待など、子どもたちの心身の健康に関する問題が山積しております。生活習慣病の若年化、アレルギー疾患等の健康問題、いじめ・不登校等のメンタルヘルスに関する問題など様々な問題が顕在化しております。

また、今年に関しましては、新型コロナウイルス感染症という新たな感染症が発生し、教育現場におかれましては、学校の休業や休業明けの子どもたちの心のケアなど様々な問題が起こりこれまで以上に学校保健の重要性が増しております。

大会誌には、基調講演「子どもたちの命を守るために~『ASUKA モデル』への想い~」と題した、さいたま市『ASUKA モデル』関係ご遺族の桐田寿子氏の講演、「子どもたちの命を守るために~『ASUKA モデル』と小学校からの救命教育の推進~」と題した、埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター研究員桐淵博氏の講演内容、また6分科会の報告をさせていただいておりますので、日頃の学校保健活動のご参考にしていただければ幸いです。

また、本来であれば第72回安全研究大会の席上において学校保健功労者表彰受賞者への表彰式を執り行っておりましたが、やはり新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、本表彰式を中止とさせていただきました。受賞された先生方にこの誌面をおかりして心からお祝い申し上げます。誠におめでとうございます。

結びに、先生方のますますのご健勝とご活躍を心から祈念いたしますとともに、 代替開催とはなりましたが、東北各県からのご協力に心から感謝申し上げ、ごあい さつといたします。



宮城県教育委員会 教育長 伊東 昭代

東北各県から健康教育や保健衛生指導等に御尽力いただいている多くの関係各位を お迎えし、実り多い第53回東北学校保健大会の開催を期待しておりましたが、新型コ ロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を優先し、誌上をもっての運びとなりました。 開催県といたしまして誠に残念でありますが、この充実した大会誌が、今後の教育活動 の課題解決につながることを願っています。

さて、日本学校保健会は大正9年の帝国学校衛生会の発足から数えて、今年で創立100周年を迎えるとお聞きしております。この一世紀、我が国はめざましい経済発展を遂げるとともに、現在の文部科学省や厚生労働省等の施策のもと、日本学校保健会を中心として学校教育における保健・衛生活動の体系化が図られて参りました。将来の日本を支えていく児童生徒に対する健康管理の重要性や公衆衛生活動の継続的な教育は、世界の国々と比較して最も充実した衛生環境や保健医療体制を獲得するに至った大きな功績であります。これまでの全国、そして東北6県の学校保健会の皆様方の御労苦に深く感謝申し上げます。

一方で、令和2年初めから世界的に新型コロナウイルス感染症が流行し、教育の現場においても未知のウイルスとの闘いが始まりました。日常の感染予防対策や新しい生活様式を踏まえた教育活動は想像を超える困難があるものと思いますが、児童生徒のため、全国の学校保健に携わる多くの方々の熱意と御協力、さらに会員相互の強い連携による取組みが続けられており、深く敬意を表します。

また、新型コロナウイルスの対応を契機として、ICTを活用した教育活動やこれまでの知見を活かした様々な工夫・改善が進められています。健康教育や保健衛生指導等の課題解決においても、このコロナ禍をさらなる前進の機会とも捉え、困難を乗り越えてまいりたいと考えております。

結びになりますが、新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息することを願うとともに、貴会の今後ますますの御発展と、全国及び東北各県の学校保健に携わる全ての皆様方の御健康と御活躍を祈念しまして挨拶といたします。



仙台市学校保健会 会長 安藤 健二郎

昨年末に中国湖北省武漢市において発生した新型コロナウイルス感染症は、またたく間に世界全域に拡大するパンデミックとなり、今なお各国で深刻な状況が続いています。

今年の大会で皆様にお会いすることを楽しみにしておりましたが、感染防御の観点より やむなく会場での発表や交流は断念し、誌上での開催となりました。

大会での基調講演や分科会の準備を進めてこられた講師や発表者の方々のご努力、ご苦労を思うと残念でたまりませんが、熱い思いが込められた原稿をじっくり拝読させていただくことにいたしましょう。

新型コロナウイルス感染症から教育の場をいかに守るか、すべての学校関係の方々が全力であたられていることと存じます。学校は同年代の児童生徒が多数集まって日中の大半の時間を過ごす場所ですが、学校発のクラスターは少なく、現在までの感染対策は大変うまくいっていると言えましょう。厚労省発表の国内感染発生動向をみると、20歳未満の感染者(検査陽性者)数は、20歳から30歳代の感染者数に比較し、10~20%にとどまるとのデータがあります。これは20歳未満の年齢層がこのウイルスに相対的にかかりにくいと考えられる一方、しっかりした感染防御策やルールが整う学校という場所に子供たちが守られているとの見方もできます。

新型コロナウイルスは発熱や咳、鼻汁といったふつうの感冒様の症状を呈したり、味覚や嗅覚の異常が現れたり、下痢などの腹部症状が出たり、あるいは無症状でも感染していることがあるなど早期診断が難しい感染症です。また、とくに症状が無い感染者が多くの人に感染させたり、症状が重いのに誰にもうつさない例も多いなどで、感染の拡がりに謎が多いウイルスです。

かなりの難敵と言わざるを得ませんが、今までの研究や経験から、皆様ご存知の「3 密」を避けることと、マスク、こまめな手洗いやアルコール消毒、他人との距離を保つなどの基本対策が守られていれば、そう簡単にウイルスは入ってこれないことがわかっています。感染のクラスターが発生するのは、これら基本の感染対策のどこかにほころびがある場合です。

今しばらく辛抱して、これまでの感染対策を粘り強く継続していけば良いはずです。これからも皆様の力を一つにして、すべての学校をウイルスの侵入から守っていきましょう。 そして、ぜひ、来年は皆様が集まっていつものような大会が開催できることを祈ります。



公益財団法人日本学校保健会 会長 横倉 義武

「第53回東北学校保健大会」が誌上開催されるにあたり、公益財団法人日本学校保健 会を代表いたしまして一言あいさつ申し上げます。

学校保健に関わる皆様には、日頃から、児童生徒の健康教育に熱心にお取り組みいただき、心から感謝申し上げます。

近年、社会環境や生活環境の急激な変化が子供たちの心身の健康に大きな影響を与え、 様々な教育課題が生じております。とりわけ新型コロナウイルス感染症に対応した「学校 の新しい生活様式」における課題は大きく、今後も対応すべきものとなっております。

本大会主題「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」にもとづき、研究内容、成果を共有することは、大変意義深いことと敬意を表します。

本会は文部科学省の指導の下、子供たちの健康に関する調査・研究、その成果の情報提供、学校保健関係図書の頒布、各種研修会の開催など様々な事業を推進しております。本年度は、新規事業として「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引き」の作成を行うとともに、昨年度からの継続事業として、学校心臓検診・学校検尿資料の改訂や学校等欠席者・感染症情報システム研修会、アレルギー講習会等を開催して参ります。

また、今年は、本会の創立100周年を迎える記念すべき年となります。これまでの事業を振り返るとともに、新たな健康課題の解決に向けて事業を進めてまいります。学校医の皆様には、ぜひ本会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりになりますが、本大会の開催にあたり、ご尽力いただいた宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県学校保健会、仙台市学校保健会をはじめ関係各位に心から感謝申し上げるとともに、本大会の益々のご発展を祈念いたしまして、あいさつといたします。

次期開催県あいさつ



福島県学校保健会 会長 佐藤 武寿

第53回東北学校保健大会が、新型コロナウイルス感染症の影響により現地開催中止となりましたが、各県での研究の成果を大会誌上において発表する機会を得ましたことを心よりお喜び申し上げます。

本大会も回を重ねること 5 3 回目を迎え、東北の学校保健、学校安全及び食に関する指導に大きく貢献されていることに対しまして、心から感謝を申し上げます。さらに、今般の新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日々御尽力いただいている皆様には、重ねて感謝申し上げますとともに敬意を表します。

さて、新型コロナウイルス感染症のまん延により、社会情勢や生活環境などが大きく変化しています。この変化による子どもたちへの影響は計り知れません。生活習慣の乱れや心の問題、ゲーム依存、肥満、アレルギー疾患、性の問題行動など、子どもたちの心身の健康に関する課題は深刻かつ多様化しています。特に、自粛生活から続く生活様式の変化による身体的な影響や、不正確な情報による不安からくる差別、偏見そして不登校などの心理的な問題は、東日本大震災後を彷彿とさせます。また、相次ぐ児童虐待などの事件や事故、多発する自然災害への対応も喫緊の課題として挙げられます。

このような変化の激しい時勢の中、子どもたちに寄り添いながら、健康で安心・安全な生活に導き、健やかな体をつくり、豊かな心を育むことを目指す健康教育を推進することは、よりよい未来を創出することにつながると信じ、学校・家庭・地域社会との連携を深め、より一層充実した取組が求められます。

来年度、各県から様々な健康課題の解決に向けて積み重ねた知見を持ち寄り、福島県に おいて第54回東北学校保健大会を開催できますことは、誠に意義深いものであり、実り の多い大会にしてまいりたいと考えておりますので多数御参加くださるようお願い申し上 げます。

結びに、皆様方の御健勝と御活躍を祈念申し上げまして、次期開催県のあいさつといた します。

目 次

大会要項	1
令和2年度学校保健功労者	3
全体会	
基調講演	5
分科会	
第1分科会(歯・口の健康づくり)	27
第 2 分科会(心の健康・心のケア)	37
第3分科会(性に関する指導)	47
第4分科会(喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、医薬品に関する教育、学校環境衛生)	57
第5分科会(食に関する指導)	65
第6分科会(安全教育・危機管理)	73
関係者名簿	
宮城県実行委員会委員	84
宮城県実行委員会事務局員	85

第 53 回 東北学校保健大会

(兼 第72回宮城県学校保健・安全研究大会、第69回仙台市学校保健研究大会)

実施要項(大会誌による開催)

- 1 はじめに 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が世界規模で蔓延し、我が国においても緊急事態宣言が発令される事態となりました。熟慮の末、大会の開催は感染リスクが高いと考えて、大会誌の作成をもって代替開催とさせていただくことと致しました。 例年と異なる開催になりますことを、心よりお詫び申し上げるとともに、皆様の御
- 2 趣 旨 生涯にわたり心身ともに健康でたくましく生きることのできる子どもを育成する ため、学校保健、学校安全、食に関する指導に関連する課題について研究協議し、健 康教育の充実発展に資する。
- 3 主 題 「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」 〜進んで健康づくりに取り組む子どもの育成〜
- 4 主 催 第 53 回東北学校保健大会宮城県実行委員会

理解と御協力をお願い致します。

- 5 共 催 公益財団法人日本学校保健会 宮城県学校保健会 仙台市学校保健会 宮城県教育委員会 仙台市教育委員会
- 6 後 援 青森県教育委員会 岩手県教育委員会 秋田県教育委員会 山形県教育委員会 福島県教育委員会 独立行政法人日本スポーツ振興センター

公益社団法人宮城県医師会 一般社団法人仙台市医師会

一般社団法人宮城県歯科医師会 一般社団法人仙台歯科医師会

一般社団法人宮城県薬剤師会 一般社団法人仙台市薬剤師会

公益財団法人宮城県学校給食会

宮城県高等学校長会 宮城県中学校長会 仙台市中学校長会

宮城県小学校長会 仙台市小学校長会

仙台市私立幼稚園連合会 一般社団法人宮城県私立幼稚園連合会 宮城県高等学校PTA連合会 宮城県PTA連合会 仙台市PTA協議会

- 7 スケジュール 4月 事務局会議
 - 6月 実行委員会設立総会、通知依頼等発出
 - 9月 原稿締め切り
 - 12月 大会誌刊行及び配布
 - 1月 実行委員会解散総会
- 8 その他 例年、大会に併せて開催しておりました、東北学校保健連絡協議会、東北学校保健 主事連絡協議会、東北養護教諭連絡協議会については、各協議会で検討。

9 大会誌の配布対象者

配布部数は、主催団体 10 部、共催団体 5 部、後援団体 3 部の製本冊子を配布する。 以下の東北六県の関係者については、電子媒体での配布とする。

- (1) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員
- (2) 学校医、学校歯科医、学校薬剤師
- (3) 教育委員会、教育事務所の学校保健、学校安全、学校給食関係者
- (4) 学校給食共同調理場 (センター) 職員
- (5) 幼稚園、各校のPTA会員
- (6) その他の学校保健、学校安全、学校給食関係者

10 研究集録の内容

- (1) 実行委員会会長等挨拶
- (2) 学校保健功労者表彰、学校安全優良校表彰一覧
- (3) 基調講演

「子どもたちの命を守るために〜『ASUKAモデル』への想い〜」 さいたま市『ASUKAモデル』関係御遺族 桐田 寿子 氏 「子どもたちの命を守るために〜『ASUKAモデル』と小学校からの救命教育の推進〜」 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター研究員(元さいたま市教育長) 桐淵 博 氏 (4) 分科会実践研究

第1分科会 「歯・口の健康づくり」

発表者 仙台市立泉松陵小学校 養護教諭 阿部 しずか 氏 大船渡市立綾里中学校 養護教諭 今野 和子 氏

第2分科会 「心の健康・心のケア」

発表者 大崎市立古川第四小学校 教 諭 有泉 和子 氏 仙台市立松陵中学校 養護教諭 及川 典子 氏

第3分科会 「性に関する指導」

発表者 東松島市立鳴瀬未来中学校 主幹教諭 濱田 純子 氏 青森県教育庁スポーツ健康課 指導主事 原 トモ子 氏

第4分科会 「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、医薬品に関する教育、学校環境衛生」

発表者 宮城県利府高等学校 教 諭 長岡 樹 氏 福島市立矢野目小学校 養護教諭 菅野 亜希子 氏

第5分科会 「食に関する指導」

発表者 仙台市立川前小学校 栄養教諭 阿部 真由美 氏

秋田県立秋田きらり支援学校 栄養教諭 楢岡 裕子 氏

第6分科会 「安全教育・危機管理」

発表者 石巻市立広渕小学校 教 諭 佐竹 諭美 氏 三川町立三川中学校 教 頭 村井 弘幸 氏

令和2年度 学校保健功労者

〈 学 校 医 〉9名

氏:	名	学	校 保 健	会
松原	尚	仙	台	市
井 上 重	直 夫	仙	台	市
五十嵐	た 太朗	仙	台	市
氏 家 衤	谷 明	仙	台	市
橋本多	5佳子	仙	台	市
一迫耳	里恵	仙	台	市
岸	夫	石	巻 地	区
島英	を樹	登	米	市
大方高	高志		成県 高 等 🕏	

〈学校薬剤師〉 3名

氏 名	学校保健会
牛 澤 典 子	柴 田 郡
佐々木 奈緒美	加美郡
白 幡 ひろみ	本 吉 地 カ

〈学校歯科医〉12名

氏 名	学校保健	会
千木良 尚 志	白 石 刈	田
大 沼 弘 子	柴 田	郡
吉田鐘一	柴 田	郡
佐藤郁夫	柴 田	郡
菊 田 隆 三	仙 台	市
高橋晴人	仙 台	市
角 田 哲	仙 台	市
早 坂 正 博	仙 台	市
千 葉 清	仙 台	市
三 浦 誠	多賀城	市
浅 野 一 郎	石 巻 地	区
本 郷 聡一郎	石 巻 地	区

〈養 護 教 諭〉9名

氏	名	学 校	保份	建 会
宮本	彰 子	仙	台	市
佐 藤	逸 子	仙	台	中
今 野	幸子	石	巻 地	X
佐 藤	一枝	登	米	市
西條	礼子	登	米	市
千 葉	多鶴子	登	米	市
早 坂	尚美	登	米	市
寶田	明子		県 高 等 保 健 研	
阿部	幸 子		県 高 等 保 健 研	

<u>功 労 者 33名</u>

令和2年度 仙台市学校保健功労者

〈学校医〉5名

	氏	名		所属·職名
岡	部	慎	_	仙台市立館中学校管理校医
庄	司		聡	仙台市立幸町南小学校管理校医
花	田	佳	典	仙台市立南光台東小学校管理校医
渡	辺	大	助	仙台市立大沢小学校眼科校医
吉	田	文	明	仙台市立北仙台小学校耳鼻科校医

〈 学校歯科医 〉 5名

氏名	所属•職名
佐々木英夫	仙台市立高砂小学校歯科校医
佐 藤 公 威	仙台市立南小泉中学校歯科校医
富澤康彦	仙台市立柳生中学校歯科校医
佐々木祐子	仙台市立栗生小学校歯科校医
石 井 清 和	仙台市立福室小学校歯科校医

〈保健主事 〉 1名

氏名	所属•職名
小 関 浩 信	仙台市立仙台高等学校保健主事

〈養護教諭 〉5名

氏名	所属·職名
高橋芳子	仙台市立国見小学校養護教諭
鈴木ちか子	仙台市立仙台高等学校養護教諭
水沼智子	仙台市立台原小学校養護教諭
加賀玉枝	仙台市立八幡小学校養護教諭
廣 島 潤	仙台市立桂小学校養護教諭